

漢詩・杜甫の詩の教材研究について

国語教育専修・太田亨

1、授業の概観

大学院・学校教育専攻の授業「漢文教材の分析と鑑賞Ⅱ」において、大学院生1名が受講した。

本授業の目的は、教科書に取り上げられている教材の概要とその特徴を理解し、実際に読解できるようにすること、その上で、教材の内容を他者に対して伝えることができるようにすることが目的である。その教材として漢詩と史伝と論語を用意していたが、受講生が漢詩について理解を深めたいとのことであったので、唐詩、特に杜甫の詩について扱った。

上記の目的を達するために、学生には次に挙げる四つの到達目標を課した。

- ①漢文教育の意義と教材の概要を理解する。
- ②日本と中国の辞書を使いこなし、丁寧に読み解き、作者の真意を理解できる。
- ③作品のポイントを理解し、作品内容を的確に他者に伝えることができる。
- ④中国文学と日本における受容に関心を持つ。

受講生については、前期において「漢文教材の分析と鑑賞Ⅰ」を受講し、漢詩創作に当たっての規則「平仄」「二四不同・二六対・反法・粘法」等を学習し、実際に漢詩を創作してみた。そして、漢詩創作に関する学習指導要領及びその解説を提示し、高等学校で望まれる漢詩創作のあり方について説明し、本来の漢詩創作と学習指導要領上の漢詩創作の長所と短所について考察した。その際に、漢詩創作をさせるに当たっては、前段階として漢詩に興味を持たせないといけないという結論になり、漢詩を深く読解し、その上でどのように授業を構築するかという課題が残った。

この後期の授業では、杜甫の詩を対象として読解を行った。日本人が杜甫の詩を注釈したものをテキストに用い、そのテキストをもとに深く読解した。その後、一つ一つの詩の背景をもとに詩の眼目がどこにあるのか考察し、どのように授業を組み立てるか討論した。

上記のように授業を進めていくに当たって、授業外時間の学習課題を出した。杜甫の詩のテキストを読解することは授業時間だけでは時間が足りないため、授業外の課題として毎回杜詩を一首読解させた。

以上の進め方を行い、結果、杜甫の十五首の詩を読解し、授業計画を組み立てた。

2、学生アンケート及び結果

授業後、アンケートを行った。これから、アンケートの質問事項とその結果を示す。

まずは授業の概要について、アンケートを行った。以下、その項目と結果である。回答者が一人であるため、自由に記述してもらおうと同時に、話し合いの中で率直な感想を述べてもらった。

①、シラバスの説明（授業の概要）はありましたか。（あった）

②、授業における教員の態度（熱意や言動や学生に対する対応等）は適切でしたか。（適切だった：何でも聞くことができるので教員の態度に不満はなかったそうです。）

③、授業には興味を持って臨むことができましたか。（まあまあできた：正直なところ授業外課題がしんどかったそうです。教員が中国の面白い話や教員の体験談を話してくれるのが救いだったそうです。）

④、杜甫の詩を読解するにあたり、教員の説明はよく分かりましたか。（まあまあ分かった：背景を詳しく説明してくれるのは分かりやすかったようですが、時々時代の専門用語や知らない人名が出てくると混乱することがあったようです。）

⑤、授業の組み立てについて積極的に討論することはできましたか。（非常にできた：自分が意見を出すことも自由であり、また教師も色々な角度からアイデアを出してくれるので大変参考になったそうです。）

⑥、漢詩の読解について、あなたが考えたこと・思ったことを自由に書いてください。杜甫の詩に限りません。個々の作品でも漢詩全般でも何でも構いません。*以下、一部を抜粋

・杜甫の詩を読んでもみると、華々しさがなく、人生を憂えてばかりで、暗い内容が多かった。ただ、前期で習った漢詩の規則が全て守られており、あまりのすごさにびっくりした。高校の教科書で取り上げられる理由が何となく分かった。この授業で杜甫の人生を深く知ることができたのはよかった。漢詩の達人として当時も有名人かと思っていたが、全く違っていた。あれだけ漢詩の規則を守って天才なのに、就職もできず苦勞ばかりしているのには同情した。漢詩の読解については、杜甫の詩に限らず、構成がとても重要なのが分かった。

それは昔の日本人も同じだったようであり、杜甫の詩を解釈するのに、まず構成を示す場合が多かった。昔の日本人が漢詩を好み、実際に作成していたことが分かり、現在の日本人もその文化を守っていくことが重要ではないかと思った。

⑦漢詩の授業を行うことについて、あなたが考えたこと・思ったことを自由に書いてください。

・これまで実際に漢詩の授業を行うイメージがわからなかったが、この授業を受けて少し分かったような気がする。これまでは漢詩を音読して訳をすれば、それ以上に何を教えて良いか分からなかったが、実際には漢詩の背景があり、作者の思いが凝縮されていることが分かった。ただ詩句の意味を教えるのではなく、背景との関係を示すことが重要であることが分かった。あと教材をしっかり読まなければ授業ができないことが分かった。実際に教員になって漢詩を教えてみないと分からないが、漢詩に興味を持たせることはやっぱり難しいと思う。

3 アンケート結果について

①～⑤の結果より、教員の対応や授業の進行については、あまり不満は見られなかったと言える。しかし、話を聞いてみると、授業に興味を持って参加できたかという点では、できていなかったと言わざるを得ない。やはり、授業外課題がかなりの負担になっていたと思われる。テキストが難しすぎたようである。大学院ということで、ハードルを高くしたことが良くなかったと言える。

⑥の回答は、教員が読むことを想定して、良いことばかりを書いているが、話を聞くと、上記のようにテキストが難しく、教員の説明だけが頼りだったようである。ただ、前期も漢詩についての授業を行っていたので、説明の中でそれに関連することが出てくると、これまで分からなかったことが分かり、漢詩の世界に深く入り込んだ気持ちになることができたようである。

⑦の回答は、漢詩授業に対する姿勢が前向きになっていることが良い点であると言える。授業の中では、学生が積極的に発言することが多く、学部の人に受けた影響からか、授業について考えることが苦ではないようである。

4 地域社会を核とした教育と研究の繋がりについて

上記の授業とアンケートの結果を踏まえると、学生は教員の立場になったときのことを強く意識している。現に当該学生は教員採用試験に合格し、二年後には教壇に立つことになる。本授業においても、そのことを念頭に置き指導した。学生自身

も前期と後期の授業で得た知見を実際の授業で活かしたいとのことであった。教材研究の大切さを実感してくれたものと思っている。

漢詩は教科書に必ず採用されている。論語や故事成語に較べると扱いにくい教材である。前期と後期を通じて、漢詩を色々な角度から見ることができ、漢詩の授業を行うヒントを得たのではないかと考えている。昨今教員の予習不足から、作品の内容から離れて授業を行うことが増えている。教員自身が教材を深く理解し、幅広い視野から生徒を指導することが望まれる。

まとめ

大学院の授業であることから、読解するのに困難であるテキストを選んでしまったのが、学生にとっては面白くなかったようである。ただ、教材作品も面白いものだけではない。自分には合わない作品や、なかなか読解困難な作品が必ず存在する。そのような作品でもじっくり丁寧に読み、作品の価値を見出す努力をしなければいけない。学生にとっては良い経験になったのではないかと思う。